

第22回日本水大賞 応募用紙

様式-1

(整理番号:)

活動の名称	フリガナ スイゲンチクリーンキャンペーン・エコクラブタンケンタイ 水源地クリーンキャンペーン・エコクラブ探検隊		
記入年月日	活動主体 (下記より1つ選択)		分野 (複数選択可)
	学校 企業 <u>団体</u> 個人 行政		水防災・水資源・ <u>水環境</u> ・水文化・復興
活動主体の概要			
活動主体の名称 (個人応募の場合は個人名)	フリガナゼンコクカンコウジギョウキョウドウクミアイレンゴウカイセイネンブキョウギカイ 全国管工事業協同組合連合会青年部協議会		
代表者名 (団体の場合)	フリガナ オオタ カツアキ 太田 勝晶	設立年月日	平成9年(1997年)2月15日
住 所	フリガナ トウキョウトトシマクキタオオツカ 〒170-0004 東京都豊島区:		
電 話		FAX	
E-mail	j_ida@		
主な活動地	全国		
組織の概要 (個人の場合は履歴を記入)	本会は管工事組合及び組合員の次代を担う後継者を育成し、会員相互の親睦と親密なる提携を図り、その活動を強化することにより、管工事業と中小企業の組織活動の推進とその振興に寄与することを目的として設立されたものです。		
応募担当者 (代表者と違う場合記入して下さい)			
氏 名	ハヤシ マコト 林 誠	所属: 総務部	役職: 部会長
住 所	フリガナ 〒 同上		
電 話	同上	FAX	同上
E-mail	m_hayashi@	URL	https://www.zenkanrenjr.jp/outline.html
応募活動の概要: (300文字以内で記入して下さい) 私たちは全国の管工事組合の青年部の集まりで、毎年各組合で水源地をきれいにする清掃キャンペーンを行っていました。近年参加組合も増えたため、昨年度よりキャンペーン活動を水にまつわるボランティア活動全てに広げ全国の各組合青年部で多様な活動を展開しています。元来の水源地清掃に加え、水源涵養林の整備、稲作による地下水涵養、公共施設の漏水修理・節水器具の取付など様々な活動をコンペ形式で競い合っています。			
応募活動のアピールポイント: (箇条書き100文字以内で記入して下さい) 私たちの職業は管工事であり、全国の仲間たちが水の大切さを知り、未来のためにこの活動に取り組んでいます。			
これまでの受賞歴: 審査部会特別賞 ※日本水大賞への既往応募歴(第) 受賞がある場合は 第(7)回(審査部会特別賞) 賞			
「日本水大賞」をどこで知りましたか? (数字に○印を付けて下さい) 1. 新聞広告 2. 官庁内ポスター 3. 河川協会ホームページ 4. 河川協会からの誘い 5. 国の機関からの誘い 6. 県・市町村からの誘い 7. 教育関係機関 <u>8.</u> 河川協会ホームページ以外のインターネットの情報 9. その他()			

活動の概要

目的：当協議会は管工事（水道工事）業界の次世代を担う人材の集まりであり、日頃の仕事、生活から水の大切さを学んでいます。現在の日本は安心・安全な水を水道管を通して飲むことが出来、その水道に携わる仕事をしている私たちだからこそ将来の水を守ることが本当に大事なことでと考えています。

一昨年までは水源地を清掃することで安心安全な水を守る活動を主体として行ってきましたが、参加していただけの青年部も徐々に増え、地域性や様々な意見が出るようになったために昨年度から水にまつわるボランティア活動を全国で行うキャンペーンに活動の幅を広げました。

本年度も各青年部で水にまつわるボランティア活動を行い、コンペ形式でそれらを報告しあう予定です。

内容：全国28都道府県で34団体が当協議会に参加しており昨年2018年度は、12都府県14団体が水にまつわるボランティアを実施。

内容としては、水源地や河川の清掃を行った団体が8団体、公共施設のトイレや蛇口等の漏水修理をボランティアで行い節水活動を行った団体が3団体、水源涵養林の整備、稲作による地下水涵養ボランティアを行った団体が2団体、教育委員会と合同で学校給食調理士に水回り研修を行った団体が1団体。各団体で報告書を作成し全管連青年部協議会のホームページ上に公開、Facebookでも公開してそれぞれの活動のPRをして評価を行った。

最も高い評価を得た活動は熊本市管工事組合青年部の使われなくなった水田で稲作を行うことで地下に水を浸透させて地下水を涵養する活動であった。稲作という農業体験を通して会員相互の親睦を深めつつ地下水を増やすという点で高評価であった。その次に横浜市管工事協同組合青年部が行った水源涵養林の整備によって水源涵養機能を高める活動が高い評価であった。

どちらの活動にも共通しているのが、農業や林業という第一次産業の人手不足、後継者不足により農地や林が荒れて依然までの水源涵養機能が低下していて、それをボランティアによって補う活動に興味を持たれたのではないかと考えられる。

私たち建設業界も人手不足であり、担い手の育成が必要である。こういったボランティア活動を通して自分たちの仕事、水を守ることに誇りを持ち日々の仕事に繋げていけるよう今後もこの活動を続けていきたい。

活動期間 自 2001 年 4月～ 至 2019年 4月（通算 18年 月）

上記の期間以前から一部の活動を実施していた場合はその期間と内容を下に記入してください。

活動の必要性・緊急性：

- ・水を浄化する設備は進化しても、全国的に水にかかわる環境は悪くなっていく一方であり、水質、水量を未来につなげることは必要なことである。
- ・ボランティアで行っているのでわずかなことではあるが少しずつ全国の青年部協議会員に浸透している。
- ・地域によっては水不足が問題化している所もあり、全国組織である私達はこの活動を通して会員に啓発活動を行っている。

活動の効果・社会への波及効果：

- ・全国で様々な活動を報告しあうことで、似たような活動が全国に広がってきている。
- ・活動を行っていく中で会員同士の相互理解、親睦を深めることが出来る。
- ・参加している青年部の中には行政や地域の商工会等と連携をとり活動を行っている青年部もあり、公共性のある活動がみられるようになっている。地域とのネットワークを広げる活動も今後取り入れていきたい。

活動を実施する上での留意点、工夫された点、苦労された点：

- ・全国組織ということで広報が難しくなかなか全ての会員まで参加するには至らない。
- ・ボランティアで行っているので各団体どうしても活動内容が制限されて少ない予算で活動を行わざるを得ない。前年度からは協議会から助成の意味を込めてコンペ形式にして報奨金を付けることになった。
- ・他の業界の方などに活動内容を見てもらう場がホームページしかないので苦労している。
- ・水道工事関係ということで、メーカー企業との連携、商工会との連携等工夫して人が集まるようにしている。

活動の今後の計画：

- ・協議会に参加している全ての県で何か水にかかわる活動、またそれに限らず災害復旧ボランティアなどを行って社会貢献をしつつ安心安全な水という、豊かな資源を守る活動を広めていきたい。
- ・活動を通して、次世代の私たちの業界を担う人材を育成出来るようにこの活動を続けていきたい。
- ・私達の仕事は地域に密着しており、水道がある限り必要とされる仕事である。各地域で会員だけでなく一般の方も参加できるようにこのキャンペーンを広めていきたい。

応募推薦者（必要な場合にご記入ください）

氏 名		推薦の言葉：
所 属		
電 話		
氏 名		推薦の言葉：
所 属		
電 話		